



平成30年2月14日

各位

会社名 ラオックス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 羅 怡文  
(コード番号8202 東証第2部)  
問合せ先 経営企画部長 松沢 淳  
(TEL 03-6852-8881)

連結業績予想数値と実績値との差異ならびに  
特別利益および特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、平成29年8月14日に公表いたしました平成29年12月期通期(平成29年1月1日から平成29年12月31日)連結業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、当社は、平成29年12月期(平成29年1月1日から平成29年12月31日)の連結決算において、特別利益および特別損失を計上いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想数値と実績値との差異について

(1) 平成29年12月期通期連結業績予想数値と実績値の差異

(平成29年1月1日から平成29年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	63,500	100	150	—	—
実績値 (B)	64,291	138	48	104	1.63
増減額 (B-A)	791	38	△102	—	—
増減率 (%)	1.2	38.0	△68.0	—	—
(参考) 前期実績 (平成28年12月期)	62,764	△955	△1,012	△1,766	△27.27

(注1) 平成29年12月期第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、平成28年12月期については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額によっております。

(注2) 平成28年7月1日付で、普通株式について10株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

(2) 差異の理由

- ・ 売上高は概ね予想どおりに推移しました。

- ・ 営業利益に関しましては、前期末 16.8%であった売上高販売費比率が 15.3%へ 1.5%削減できたため、当初見込んでいた固定費の増加を吸収し、前回予想を 38.0%上回りました。
- ・ 経常利益に関しましては、連結業績予想数値と比べ、為替差損の増加などにより、前回予想を 68.0%下回りました。

## 2. 特別利益の内容

下記のとおり、1,281 百万円の特別利益を計上いたしました。

(内訳)

オギツグループの子会社化に伴う負ののれん発生益(注)	1,236 百万円
厚生年金基金の脱退による厚生年金基金脱退損失引当金戻入額	33 百万円
新株予約権の権利失効分戻し入れによる新株予約権戻入益	11 百万円

(注) 本金額は、現時点で入手可能な合理的な情報等に基づき計算した暫定値であります。「企業結合に関する会計基準」に基づき、企業結合日以後1年以内に取得原価を配分し、会計処理を確定いたします。

## 3. 特別損失の内容

下記のとおり、1,213 百万円の特別損失を計上いたしました。

(内訳)

海外子会社の整理および閉鎖に伴う損失の発生	543 百万円
新興製靴工業株式会社より譲受した事業に関し、当初想定していた超過収益力が見込めなくなったことに伴う、のれん未償却残高に対する減損損失の計上	315 百万円
国内リテール事業における収益性低下店舗及び1年以内退店予定店舗に対する減損損失の計上	229 百万円
国内リテール事業における店舗閉店に伴う店舗整理損の計上	32 百万円
国内子会社における店舗閉店に伴う固定資産除却等の損失等の計上	8 百万円
国内子会社における特別退職金の支払	10 百万円
国内子会社における事業所移転費用	60 百万円
中国子会社における店舗整理損の追加発生	13 百万円

## 4. 業績への影響

本日公表の「平成 29 年 12 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」に反映しております。

以上